

EVALUATION *

全国各地から寄せられるユーザーの皆様からの貴重な声の数々。アールエフズ・ヴォイスでは、毎回その中から製品やサービスに関する評価レポートを取り上げご紹介しています。



先生ご自身のブログで「たいせつなもの」のひとつとして、マイクロスコープをはじめ、ご購入いただいたアールエフ製品を詳しくご紹介いただきました。アドレスはこちら↓
<http://murashika-dr.blog.drecom.jp/> (ブログ7月8日分)



アールエフのマイクロスコープを導入。 その拡大率と再現性は、術者の能力をはるかに超えています。

医療法人村山歯科 村山豊先生(群馬県前橋市)

「空白の時間」が
なくなりました。

当院には3台のチェアと1台のベッドがあります。フル稼働する際は、どうしても患者さんにお待ちいただくことになってしまいます。今まではその間、雑誌をご覧いただいたり、簡単なインフォームドコンセントでつないだりしていたのですが、毎回それでは患者さんにも不満。特に小さなお子様はなかなか我慢できません。でもアールエフのモニターシステムを導入してからは、その間が「空白の時間」ではなくなりました。

お子様の場合は、モニターでアニメを流し、飽きさせないようにしています。しかも待合室とチェアのモニターとを連動させ、チェアに移動してからも、待合室で見ていたアニメの続きをご覧いただけるようにしました。

それにより、チェアに誘導しやすくなったことはもちろん、お子様自身の治療に対する積極性を引き出すことができるようになったと思います。また、お子様以外の患者さんにも、常に環境映像やニュースなどを流し、飽きさせないようにしています。

ワンランク上の インフォームドコンセントを。

当院では全てのチェアとベッド、そしてカウンティングコーナーにもアールエフのモニターを設置しています。これにより、院内のどこにいても、すぐに多角的なインフォームドコンセントをご提供できます。患者さんとの会話の中で、症状について話題になったその時、実際の画像ですぐに情報をご提供できるのです。「知りた

い」と思ったその瞬間に知っていただく。これこそワンランク上のインフォームドコンセントだと思っています。

もちろん、治療中のインフォームドコンセントにも活用しています。例えば、レジン充填修復処置は、カリエス発見↓切削↓軟化象牙質除去↓充填↓研磨という流れで行いますが、この一連の過程を、全て画像でご覧いただけます。

つまり、処置前から処置後までを、ひとつの「物語」のようにご説明するということ。これは、今までにはなかった情報提供のスタイルだと思えます。

よりミクロな もうひとつの目。

当院では、アールエフのマイクロスコープも導入しているのですが、その拡大率と再現性は、術者の能力をはるかに超えています。人間の肉眼での認識では到底及ばない世界を、わかりやすく映像で見せてくれるのです。

マージン形成やインプラント、そして特に重要するのはF1a p等の外科処置の時です。不良肉芽を除去する際は、出血部位を長い時間見続けなくてはならず、かなりの集中力が必要となります。そんな時、マイクロスコープが非常に役に立つのです。出血部位を長く見続けるには、モニターを通して方が目が疲れない。それを実感しました。

歯科医師にとって、目は命です。長く現役であるために、この「もう一つのミクロな目」を活用することで、自分自身の目を大切にできると思います。

使用している主な機器



- マイクロスコープ (カメラ) 1台
- Doctor's Station (モニター) 2台
- Galileo (モニター) 3台
- Einstein Sapana (カメラ) 1台
- Einstein (カメラ) 1台
- BS-55 (トランスミッター) 1台

マイクロスコープ (ドクターズ・ステーション専用モジュール)

デジタルマイクロスコープがあれば、ドクターはもう眼や腰の痛み悩まされることはありません。患者さんの口腔内を覗き込む際の無理な姿勢からドクターを解放。快適な診療を可能にします。また、今までマイクロスコープ使用の際に問題だった「ブレ」は、アールエフがカプセル内視鏡「Sayaka」において開発した独自の技術で解決。「顕微鏡酔い」の心配とは無縁です。



※マイクロスコープについては各店舗にお問い合わせください。